

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 3年 3月 15日

事業所名 神原障害児デイサービスセンター

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	12	1	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の状態により、他の部屋で過ごしている。 ・利用人数に応じて、活動できるように十分スペースを確保している。 ・利用者に応じて使用している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・適切ではあるが、療育部屋の座る場所が時間的に重なることがあるので、時間の調整が必要なのではないか
	2	職員の配置数は適切である	11	2	<ul style="list-style-type: none"> ・安全面に配慮して行っている。 ・利用人数に十分な職員は配置されている。 ・曜日により利用者が違うため声掛け等で配置を変えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の人数は適切であるが、今後ヒヤリハットなどを踏まえ、場所で見守るなど必要である。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	13	0	<ul style="list-style-type: none"> ・床、トレイ等バリアフリーであり、手すりも十分設置されている。 ・段差がなくフラットになっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレ便座については、体格にもよるが、少し高いように感じるので、踏み台等の利用を検討。食堂については、椅子がパイプ椅子の為、不安定な事と、指はさみ等を考え、備品購入の検討が必要。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	13	0	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアプランで半年ごとの評価を行っている。保護者からも話を聞く機会を持っている。 ・毎月、処遇会議を行い、よりよい支援に繋がる努力をしている。 ・職員全員が関わりが持てるようにローテーションが組まれていることと、朝礼等の情報共有の場を活用するようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員間での共有の徹底が必要である。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	13	0	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートを実施し、集計し、問題点を上げ協議し、改善へと繋げている。 ・長期休み前、必要時にアンケートを取り保護者のニーズの把握に努めている。 ・保護者からの訴えがあった項目について検討し、広報誌などを活用し、改善や周知をしている。 ・連絡帳に保護者からの記入欄を設けることで、情報交換がより密にできるようになっている。 	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	12	1	<ul style="list-style-type: none"> ・「てとて」等 ・ホームページで公開している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者に伝わりやすいよう、広報誌等で公開しているが、外部委託などして目を引くようなホームページを検討する。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	2	11		<ul style="list-style-type: none"> ・第三者外部評価者は現在いない、コロナ前利用者家人、他相談支援員に夏の活動時、見学を実施。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	13	0	<ul style="list-style-type: none"> ・レベルアップとして研修を実施している。 ・外部はコロナの影響で難しいが、内部研修を行っている。 ・年6回の研修に取り組んでいる。 	

9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	13	0	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアプラン作成時に保護者に聞き取りを行っている。 ・半年ごとに保護者と話し、ニーズ、課題を出している。 ・年2回は保護者との対話の場を作り、サービス計画を作成、見直しを行っている。 ・ニーズに合った援助ができるよう職員で協議し、決定したことを計画し作成している。 ・職員により、他職員、保護者等と日ごろから連携を取り作成している。 ・コロナ禍の中、直接の聞き取りが難しいので、電話等で対応し作成している。 	
10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	10	3	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者台帳で状況を把握している。 ・基礎情報ツールに障害特性について記入欄があり、聞き取り時に活用している。 	
11	活動プログラムの立案をチームで行っている	10	3	<ul style="list-style-type: none"> ・担当ごとに行っている。 ・問題がある時には、処遇会議等で話し合いを持つようにしている。 ・担当職員が中心となって全体で協議し決定している。 ・問題がある利用者について全職員へ伝達し、立案している。 ・各担当(グループ)を作り、細かい打ち合わせを行い検討している。 ・担当を複数人おくことでいろいろな意見を取り入れながら立案、実施している。 	
12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	12	1	<ul style="list-style-type: none"> ・各児童にもよるが、固定化プログラムもある。 ・活動プログラムの内容を検討し、まんねり化しなよう改善している(特に療育活動について) ・レクリエーションの担当を決め工夫している。 ・療育については、固定化してクリアできた段階で新たなプログラムを立案して行っている。 ・レクリエーション、季節行事を取り入れ活動している。 ・障害の特性を見極め、固定するもの、変化するものとバランスをとる工夫をしている。 	様々な工夫された活動の実施。
13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	13	0	<ul style="list-style-type: none"> ・一日の活動が充実できるように、事前に計画を検討している。 ・スケジュールを決めて実施している。 ・長期休暇については、前に会議でその日の流れを決定し、休日についてはその日のリーダーが事前に考えて、その日の職員へ流している。 ・新しいニーズ等も取り組み、設定されている。 	

適切な支援の提供	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	13	0	<ul style="list-style-type: none"> ・個別活動は主に療育活動を主にし、帰りの会等集団活動を取り入れ、計画し実施している。 ・障害特性を考えながら、個別は決定し、集団療育についても誘導の仕方について考えている。 ・保護者、職員間で検討し個人に合った療育活動を実施、集団活動も季節行事を取り入れ工夫している。 ・保護者と面談し、決定している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個々に合った計画を作成しているが、内容の向上を図る。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	13	0	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡の漏れが無いよう、朝礼、昼礼等、支援の内容を確認している。 ・朝礼にてその日の流れの確認を行っている。 ・朝礼、昼礼等で情報の共有を図っている。 ・職員間のコミュニケーションを活発に行い、会議や朝礼以外の場でも話あえる環境になるよう努力している。 ・処遇会議等も含め打ち合わせされている。 	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	11	2	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡、打合せはできている。 ・特に問題点等があれば終了後、職員に情報を共有している。 ・長期時には終礼を行い、他日には、問題が発生した利用者については、その日の職員間で情報を流し、次の日の朝礼で伝達している。 ・朝礼、昼礼、終礼などで職員間で検討している。 ・(長期休み時)終礼もしくは翌日の朝礼で共有を図る。 ・職員間のコミュニケーションを活発に行い、会議や朝礼以外の場でも話あえる環境になるよう努力している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体への共有ができていない事もある為必ず共有できる様に改善すべき点はあると思われる。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	13	0	<ul style="list-style-type: none"> ・その日の事はケースに記録し、支援の改善を行っている。 ・ケース記録に書いたり、その都度話し合う。 ・毎日個人のケース記録に当日担当職員が記入している。 ・アセスメントの際、事前に記録を確認し、より良い支援になるよう工夫している。 	

	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	13	0 ・半年ごとに行っているが、必要に応じて何かあればその都度、保護者に情報を聞いている。 ・定例会議、又必要に応じて臨時会議を実施している。 ・支援期間途中でも支援内容が変更した場合には聞き取りを行い、作成の見直しを行っている。 ・見直し時に、保護者と検討している。 ・必要時はその都度、年2回は保護者とモニタリングを行い職員間で共有を図る。 ・送迎等の機会を利用し、保護者から情報を仕入れ、必要なら見直しを行っている。	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っている	8	5 ・支援員と共に行っている。 ・年間行事予定を組み実施している。	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	13	0	<ul style="list-style-type: none"> ・会議にはケアプラン担当者が参加し、必要に応じて以前担当した職員、数人で参加する場合もある。 ・ケアプラン担当者が会議に出席している。 	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	13	0	<ul style="list-style-type: none"> ・送迎時に学校との情報共有はしている。 ・送迎時にその日の子どもの様子などを聞いて対応している。 ・学校ホームページ、保護者の協力により行事、下校時刻を把握している。送迎時の時間の遅れなどのトラブルは電話連絡で対応している。 ・送迎時を利用し学校との連絡を密に取っている。不明な点は電話連絡するなどすぐに対応出来るようにしている。 	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	11	2	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者を通して連絡が取れるようになっている。 ・座薬については主治医からの指示書をお願い介護者でも挿入できるようにしている。主は保護者からの指示。 ・看護師が主体となり、保護者を通して対応している。 ・保護者を通して連絡体制を取っている。 	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	6	7	<ul style="list-style-type: none"> ・直接連絡は取らないが、保護者から聞いている。 ・他事業所のサービス担当等と連携を取り実施している。 ・支援員を通して情報の受け渡しをし理解に努めている。 	・情報共有と相互理解はあまりできていないと思われる。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	12	1	<ul style="list-style-type: none"> ・相談支援員、保護者からの情報による ・同じ事業所に行く場合は、今までの支援内容を提供している。 ・家人へ、情報共有してもよいか、当初の聞き取りで情報を得て、行っている。 ・一部の施設へは直接提供している。支援員には常時情報を提供している。 ・支援員を通して提供している。 	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	7	6	<ul style="list-style-type: none"> ・外部研修へ参加し受けている。 ・支援センターと連絡は密にとり、情報収集を行っている。 ・事業所内に研修案内がしてあり、参加の機会が取れるようにしている。 	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	1	12	<ul style="list-style-type: none"> ・交流機会を検討する。 ・コロナの関係で現在対外的な交流は難しい。 ・公園へ行く程度で、積極的な外部との関わりが不十分のため検討が必要。(コロナが落ち着いたら) 	

	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	11	2	・子供支援ネットへ参加している。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	13	0	<ul style="list-style-type: none"> ・送迎時、または電話等で行っている。 ・連絡帳の記入、送迎時の対応、電話での説明等、その都度報告、相談を実施 ・利用日の送迎時に日々の状況を保護者へ伝え情報をもらうようにしている。 ・日ごろから、送迎時などに日々の様子を伝えて状況理解している。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	5	8	<ul style="list-style-type: none"> ・問題や相談があった場合職員サイドからの支援を行っている。 ・保護者に対して、どういった支援がペアレント・トレーニングなのか理解できていない。
保護者へ	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	13		<ul style="list-style-type: none"> ・契約時に説明し、何かあれば随時対応している。 ・契約時、その他、保護者からの質問があれば対応している。 ・契約時、ケアプラン更新、見直し時など、その都度時間をかけ説明を行っている。 ・契約時他、不明な点などないか確認するようにしている。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	13	0	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者から相談等あれば職員間で話し合い検討、対応している。 ・保護者から相談があった場合は、その都度、支障のない程度に対応している。 ・悩み等の訴えがあった場合には助言等を行っている。 ・職員間で相談し対応している。 ・送迎、連絡時他、こちらからも電話連絡を入れ、必要時は相談支援員へも伝えている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	9	4	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナにより今年度は開催できていないが通常は家族会を開催している。 ・夏休み事業所参観、保護者会を開催の積極的、保護者同士の連携を支援する。 ・コロナ禍において実施はできなかったが、計画をしていたので、今後、違う方法で行っていきたい。 ・コロナの影響で事業所参観他、見学会、茶話会等できなかった為、人数等を決め、できる方法を考える事が必要。(アンケート内容、配布等)

の 説 明 責 任 等	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	13	0	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者から何かあれば職員間で話し合い検討対応している。 ・職員間で協議し合い、適時に対応している。 ・保護者から要望等と言われた場合、その都度職員間で統一し対応している。 ・契約時に説明を行っている。 ・相談窓口他、日々のやりとりを軽視せず、申し送りや引継ぎ、また、相談支援員へも情報を伝え、対応している。 ・職員間ですぐに会議を設け対応している。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	13	0	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡帳を利用して行っている。 ・「てとて」の会報を発行し、情報を発信している。 ・広報誌を定期的に発行している。 ・年4回の広報誌を発行 ・保護者にわかり易く伝えるよう広報誌を工夫している。メール配信も活用している。
	35	個人情報に十分注意している	13	0	<ul style="list-style-type: none"> ・十分に注意している。 ・書類を持ち出さず、注意している。 ・職員に個人情報保護に関する誓約書を提出してもらっている。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	13	0	<ul style="list-style-type: none"> ・子供へは視覚的支援を利用。送迎時等で情報伝達をしている。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	9	4	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度は、コロナにてできなかったが、本館の夏祭りなどで地域住民を呼び障害施設職員も参加して行っている。 ・法人全体での行事に参加

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	13	0	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所内に掲示することで周知している。 ・年に何度かお知らせを保護者に発行している。 ・職員間でも話し合っている。 ・一部事業所内に張り出すなどしてすぐに対応できるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者への周知を検討する必要がある。 ・避難訓練時のルートを写真にして、視覚的にわかりやすいものを作成していく必要がある。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	12	1	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回実施している。 ・職員で話し合い、避難訓練を子どもと実施している。 ・地域の避難場所まで散歩訓練を兼ねた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に非常ベルを使用し、子ども建物から出て避難する訓練等を検討する。 ・利用者がいる場合の避難は、計画はあったが、定期的にはできていないため、定期的な訓練の実施。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	12	1	<ul style="list-style-type: none"> ・内部研修、外部研修にしている。 ・研修会を実施し、意識を高めている。 ・外部からの講師を呼び、研修を行ってきた。しかし、本年度は、中止になったり少人数で行うなどの結果となった。 ・年に1回虐待に関する研修を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援者としての基本的な研修の検討・実施。 ・研修の内容に取り入れ支援に繋げる。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	13	0	<ul style="list-style-type: none"> ・身体拘束が必要な場合のみ保護者に同意書を記入してもらう。 ・保護者に事前に承諾書を取っている(やむを得ない場合のみ実施) ・職員間で検討し必要時には身体拘束について記載された内容の書類を作成、保護者へ説明、押印をもらい支援に繋げている。 ・保護者への丁寧な説明を行い、理解を得た上、行動制限に関する書類を作成し、署名・捺印したものを保管している。 	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	12	1	<ul style="list-style-type: none"> ・医師の指示書はもらっていないが、保護者にアレルギー確認している。 ・保護者にアンケートを取り、注意する食物に気を付け、対応している。 ・アレルギーアンケート実施。食物アレルギーがあった場合、保護者より指示書をもらうようにしている。 	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	13	0	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリがあった場合等はすぐに共有ができていくと思う。 ・処遇会議、朝礼、研修会等で情報共有し、協議し、支援している。 ・職員へ伝達し、対応方法の伝達・報告を行っている。 ・その都度、職員間で統一し、検討、委員会でも事業所と話し合いをしている。 ・その都度作成し、検討している。 ・職員間で会議を開き共有、検討して支援に繋げている。 	